前に進むしかない

そのまま、緊張しながら、バスを降りて、南口の改札口に近づいた。

改札口、右側に彼女が立っている。

僕に気がついた様子だった。

僕は、そのまま、視線を彼女からそらして、改札口を通ってしまった！

宇治行きの各駅停車に、そのまま、体をかたくして、乗ってしまった！

「ばか！
ばか！
どうした！」

電車の発車のブザーが鳴り出し、僕はびくっとした。

車掌の笛の音が鳴り、ドアが閉まろうとした。

僕は、その時、席からにゅうっと立ち上がり、高い崖から飛び下りる気持ちで、電車を急いで、飛び下りた。

僕の後ろで、電車のドアが締まった。

宇治行きの各駅停車は、プラットフォームを離れて行った。

106 前に進むしかない・・・・・・・・・・・・・466

萩原良昭